

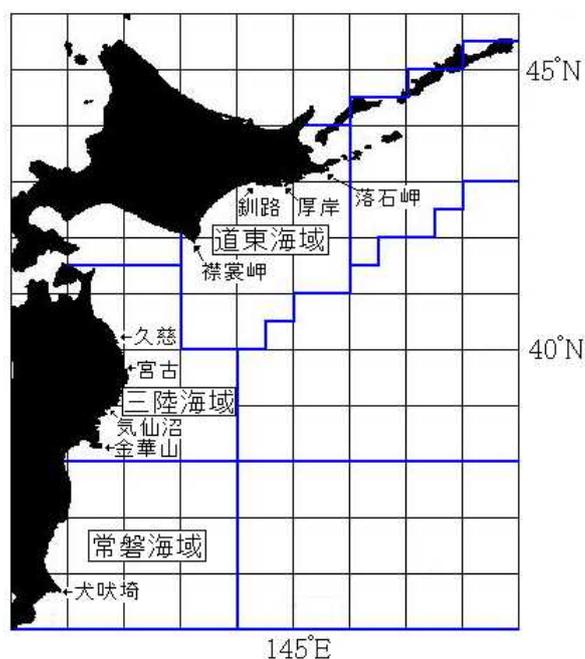
2022年度 第4回サンマ中短期漁況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し一般社団法人漁業情報サービスセンターがとりまとめた結果 －

今後の見通し(2022年10月中旬～11月下旬)のポイント

来遊量

- ・道東海域では、10月中旬は断続的な来遊があるものの、来遊量は少ない。
- ・三陸海域では、10月下旬になると来遊があるが、来遊量は少ない。
- ・常磐海域では、11月上旬になると来遊があるが、来遊量は少ない。



海域の名称

問い合わせ先

一般社団法人漁業情報サービスセンター 水産情報部
担当：渡邊、緑川
電話：03-5547-6889、ファックス：03-5547-6881
当資料のホームページ掲載先URL
<http://www.jafic.or.jp/information/category/news/>

2022年度 第4回サンマ中短期漁況予報

1. 今後の見通し

予測期間：2022年10月中旬から11月下旬までの旬別

対象海域：道東海域、三陸海域、常磐海域

対象漁業：さんま棒受網漁業

対象魚群：南下回遊群

1) 道東海域

(1) 来遊量

9月下旬の漁場は、道東海域より東側の公海であり、道東海域には漁場となるような魚群は分布していなかった。道東海域よりも東沖の公海における10月中旬の来遊量は、9月下旬より増加するものの低水準である。道東海域では、10月中旬～11月上旬に、断続的な来遊がある。多くの魚群は、道東海域よりも東～南側を南下し、道東近海に来遊する群は極めて少ない。

(2) 漁場

10月中旬の主漁場は、道東海域より東側の公海となる。道東海域では、10月中旬～11月上旬に、落石沖の沿岸から離れた沖合に散発的に漁場が形成される。11月中旬以降、漁場は形成されない。

2) 三陸海域

(1) 来遊量

10月中旬は、来遊は無い。10月下旬～11月上旬に断続的な来遊があるが、来遊量は前年同様少ない。11月中旬は低位水準で増加し、11月下旬は低位水準で推移する。

(2) 漁場

10月下旬～11月上旬は、三陸海域に漁場が形成される可能性があるが、漁場は三陸沿岸から離れた沖合となる。11月中旬～下旬は、三陸南部に漁場が形成される。

3) 常磐海域

(1) 来遊量

10月中旬～下旬は、来遊は無い。11月上旬～中旬は、断続的な来遊がある。11月下旬は低位水準で増加する。

(2) 漁場

10月中旬～下旬は、漁場は形成されない。11月上旬～下旬は、常磐北部に漁場が形成される。

2. 予測の概要

海 域		10月中旬	10月下旬	11月上旬	11月中旬	11月下旬
道東海域	来遊量	— →	— →	— →		
	動向	断続的	断続的	断続的		
	漁 場	落石沖	落石沖	落石沖		
三陸海域	来遊量		— →	— →	————→	————→
	動向		断続的	断続的	低位増加	低位水準
	漁 場		三陸沖合	三陸沖合	三陸南部	三陸南部
常磐海域	来遊量			— →	— →	————→
	動向			断続的	断続的	低位増加
	漁 場			常磐北部	常磐北部	常磐北部

3. 漁況の経過概要（9月下旬）

1) 道東海域

(1) 来遊量

今年は、前年同様、道東海域に漁場は形成されず、道東海域における来遊量は極めて少ない。

主漁場は、9月中旬同様、道東海域より東側の公海であったが、9月中旬よりも道東海域に近い場所でも漁場が形成された。1日1隻あたり最高で38トン程度漁獲した船はあったが、多くの船の漁獲量は少なかった。CPUE（1網あたりの漁獲量）は9月中旬より増加したものの、前年よりも少なく、水準は少なかった。これらのことから、魚群は9月中旬よりも道東海域に近づいたものの、沖合に分布しており、分布量は前年よりも少なかった。

(2) 漁場

道東海域に漁場は形成されなかった。主漁場は、道東海域東側の公海、落石東南東沖の240～250海里、落石東北東沖の380～460海里、落石東沖の480～530海里、落石東北東沖の560～630海里であった。小型船の多くは出漁できなかった。

落石東南東沖の240～250海里的の漁場水温16～18℃では、30日夜に大型船数隻～30隻程度操業し、最高39トン、平均6.0トン漁獲した。

落石東北東沖の380～460海里的の漁場水温16～18℃では、24日夜以降、大型船数隻～20隻程度と小型船数隻操業し、大型船で最高21.5トン、平均6.9トン漁獲した。

落石東沖の480～530海里的の漁場水温18～20℃では、24日夜以降、大型船1～30隻程度と小型船数隻操業し、大型船で最高38トン、平均15.9トン漁獲した。

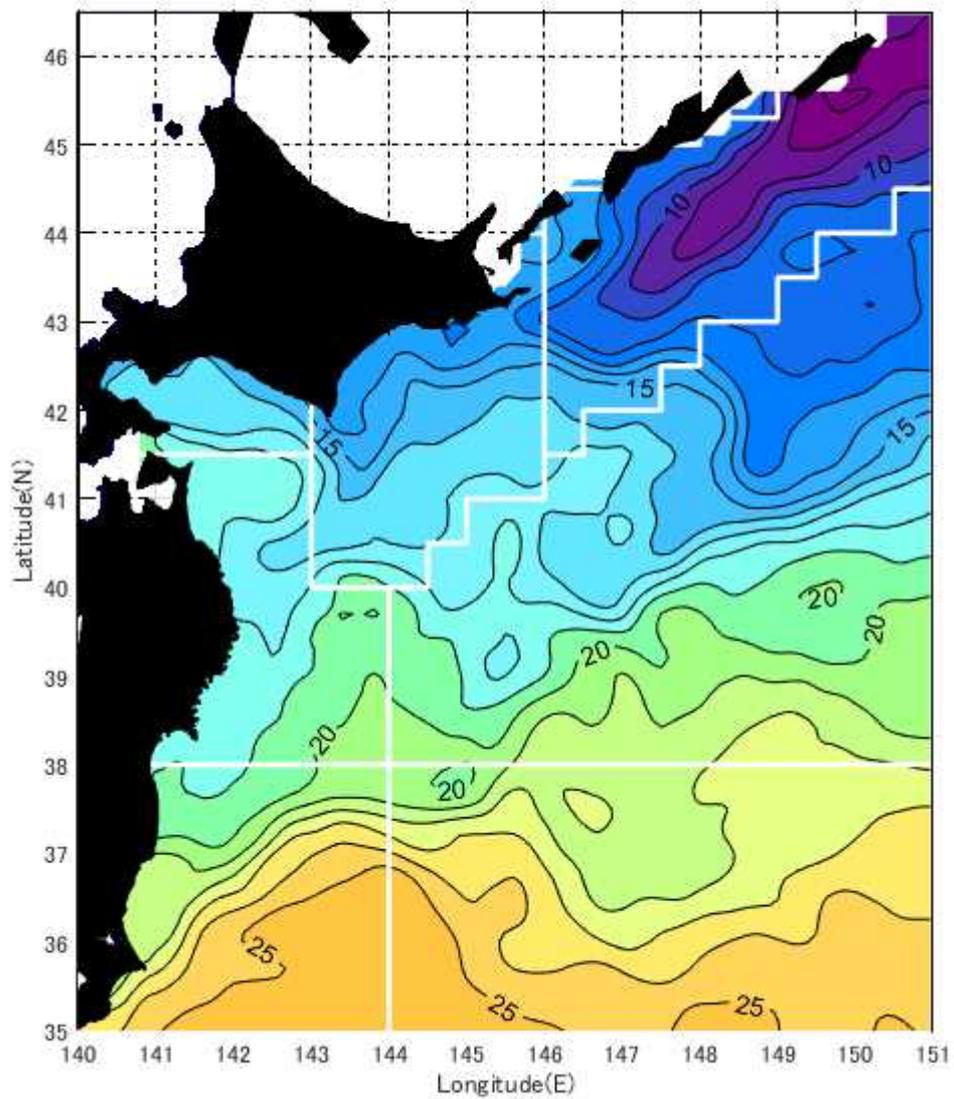
落石東北東沖の560～630海里的の漁場水温17～19℃では、21～24日夜に大型船数隻～45隻程操業し、最高24トン、平均4.6トン漁獲した。

(3) 魚体

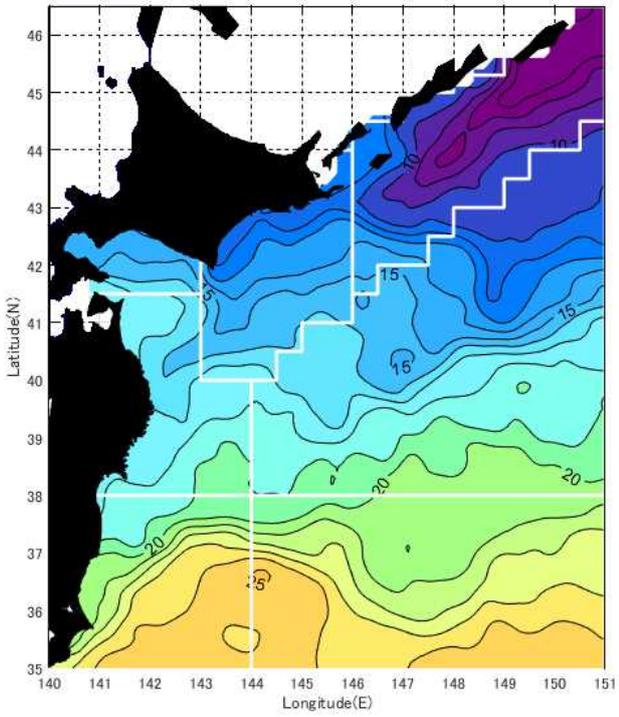
道東海域よりも東側の、落石東南東沖の240～250海里では、体長28～29cmモードであった。体重は90～100g台が主体であった。また落石東北東沖の380海里～落石東北東沖630海里では、体長28～29cmモードであった。体重は90～110g台が主体であった。

4. 予測水温分布図

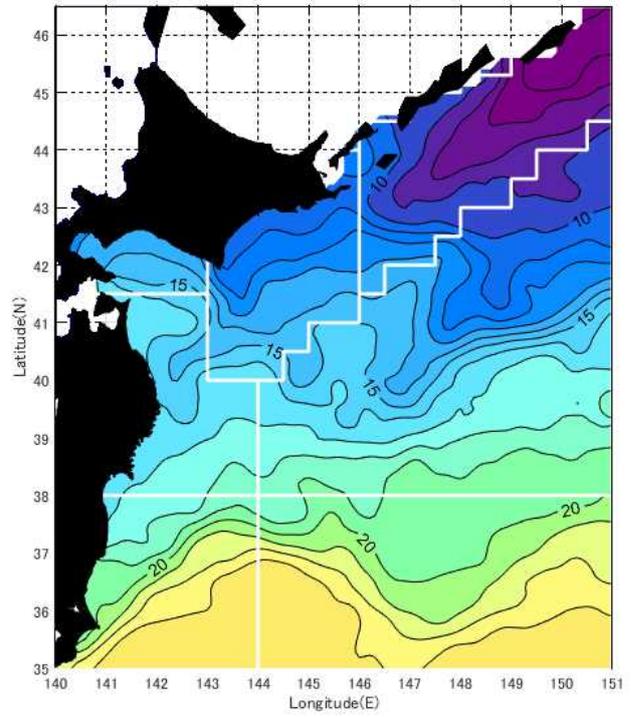
10月中旬予測表面水温分布図



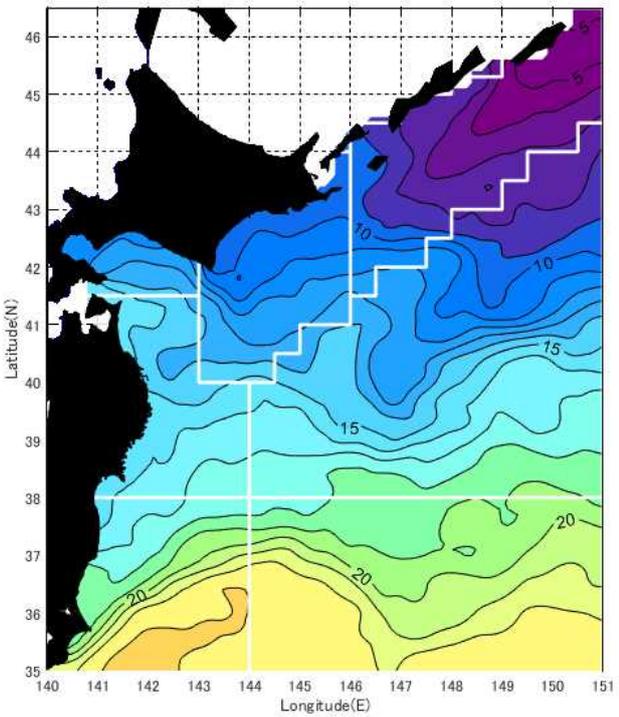
10月下旬予測表面水温分布図



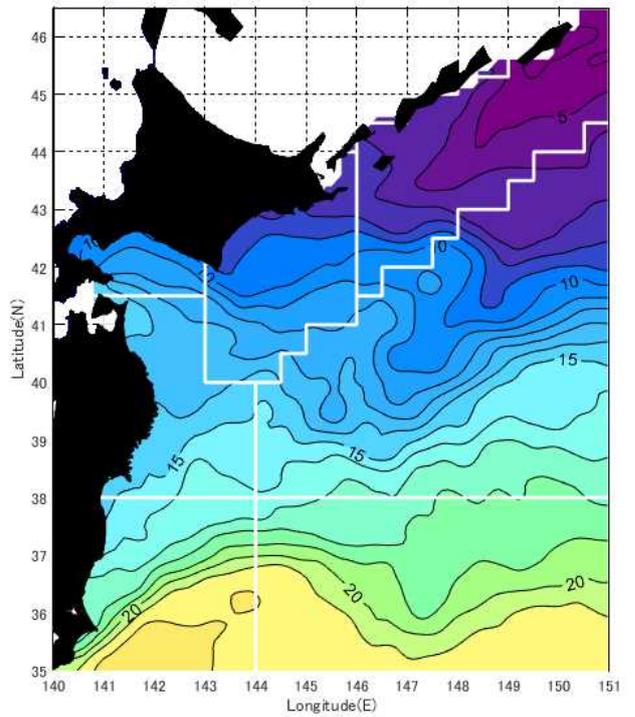
11月上旬予測表面水温分布図



11月中旬予測表面水温分布図



11月下旬予測表面水温分布図



参 画 機 関

<p>地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 水産研究本部 釧路水産試験場</p> <p>岩手県水産技術センター</p> <p>宮城県水産技術総合センター</p> <p>福島県水産海洋研究センター</p>	<p>茨城県水産試験場</p> <p>千葉県水産総合研究センター</p> <p>国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産資源研究所</p> <p>(取りまとめ機関)</p> <p>一般社団法人 漁業情報サービスセンター</p>
--	--